

2016 綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

平成28年度 事業報告書



綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町

（公財）日本自然保護協会・（一社）てるはの森の会

平成 28 年度 事業報告書

目 次

I	第Ⅲ期短期行動計画	4
II	平成 28 年度 事業報告（※短期行動計画順に、実施した事業名・報告書記載者名を掲載）	
1	項目：協働の体制づくり ― 綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	
1-1-①	綾プロ 10 周年の評価方法の検討（連携：てるはの森の会）	6
1-3-③	プロジェクト事務局運営事業（てるはの森の会）	7
2	項目：照葉樹林の保護 ― 保護林の計画的・順応的保全管理を実施	
2-2-③	ナラ枯れ予防対策後のモニタリング調査の実施（綾町）	8
2-3-①	横断的な保全管理計画を策定（連携：九州森林管理局）	9
2-3-①	横断的な保全管理計画を策定（宮崎県）	10
2-3-①	綾町森林整備計画の見直し（綾町）	11
3	項目：照葉樹林の復元 ― 照葉樹林への効果的・効率的な復元を推進	
3-2-①	人工林から照葉樹林への復元事業（九州森林管理局）	12
3-2-①	人工林から照葉樹林への復元事業（宮崎県）	13
3-2-①	人工林から照葉樹林への復元事業（綾町）	14
3-2-②	持続的林業経営エリアにおける森林整備（九州森林管理局）	15
3-2-③	復元見本林の検討（連携：てるはの森の会）	16
3-2-④	綾プロエリア等における鳥獣捕獲事業（九州森林管理局）	17
3-3-①	照葉樹林復元ボランティア作業の実施（九州森林管理局）	18
4	項目：照葉樹林の調査研究 ― 照葉樹林を適切に復元するための 調査研究を推進し、復元に反映	
4-1-①	調査研究ワーキング設置の検討（連携：てるはの森の会）	19
4-2-③	照葉樹林復元の動態モニタリング及び 各種試験研究成果の整理等についての業務（九州森林管理局）	20

5 項目：照葉樹林を通しての環境教育　－　照葉樹林の重要性を学ぶ環境教育の実践	
5-1-① 環境教育のための行動計画を策定(連携：九州森林管理局)	22
5-1-① 環境教育エリア見直しのための概況調査（九州森林管理局）	23
5-1-③ 照葉樹林環境教育講座（綾町）	24
5-1-③ 生涯学習講座（綾町）	25
5-1-③ 照葉樹林に親しむイベントの開催（連携：てるはの森の会）	26
5-2-② 県有林造成事業（宮崎県）	13
5-2-② 遊歩道整備ボランティア作業（てるはの森の会）	27
6 項目：プロジェクトの情報発信　－　情報発信及び支援の輪の拡大活動	
6-1-② 会員情報（てるはの森の会）	28
6-1-③ 市民参加による自然林の復元調査及び自然林の調査（日本自然保護協会）	29
6-2-③ ホームページ等による情報発信（九州森林管理局）	30
6-2-③ 普及啓発事業（てるはの森の会）	31
6-2-④ 照葉樹林文化シンポジウム運営補助（綾町）	32
6-2-⑤ 事業説明会の開催（九州森林管理局）	33
6-3-① 環境学習事業・照葉樹林ガイドボランティア事業補助 自然環境ガイド研修事業（てるはの森の会）	34
6-4-① 森林セラピー基地整備事業（綾町）	35
7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり　－　自然と共生した地域づくり	
7-1-① 地域づくりワーキングの設置と運営・事業補助（てるはの森の会）	36
7-1-② 照葉大吊橋 森の驛運営事業（てるはの森の会）	37
7-1-③ 多古羅周辺の調査（てるはの森の会）	38
7-3-① 綾町森林・林業関係検討会（九州森林管理局）	39
7-3-① ユネスコエコパークとの連携（綾町）	40
7-3-① 綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。 綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援(日本自然保護協会)...	41
8 項目：生物多様性の保全　－　生物多様性の保全管理	
8-1-④ 綾生物多様性地域戦略 実践支援事業（綾町）	42
Ⅲ 平成 28 年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧	43
Ⅳ 平成 28 年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連新聞記事	44

第Ⅲ期短期行動計画（平成25年～29年度）

第Ⅲ期短期行動計画						平成28年度事業報告			
項目	第Ⅲ期課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	事業名	連携先	頁	
1	綾の葉樹プロジェクトの推進のための整備	1 協定書を見直し第Ⅳ期行動計画を作成する	① 協定書を延長するとともに必要に応じて内容の見直しを検討	全	T	綾プロ10周年の評価方法の検討（連携）	全	6	
		2 森林計画の策定し、照葉樹林の復元、地域づくりを推進する	② 本プロジェクトを規定する森林計画を策定	全					
		3 事務局体制を確立し、安定的な事務局業務の運営を行う	① 安定的な財政基盤を確立	全					
			② 2名以上の専従の雇用し、事務局業務運営を行う	全					
2	照葉樹林の保護	1 保護林の保全管理計画を策定する	① 綾森林生態系保護地域の保全管理計画策定	国・NJ					
			② てるは郷土の森の保全管理計画策定	国・町					
			③ 県植物群落参考林の保全管理計画策定	県					
			④ 綾川上流緑の回廊モニタリング調査	国					
		2 保全管理計画に基づき適切な保全管理を行う	① 巡視体制の構築	全					
			② 管理施設（案内板・標識等）の整備	全					
		3 綾プロエリア全域の保全管理計画の策定	③ モニタリング調査	全	町	ナラ枯れ予防対策後のモニタリング調査の実施		8	
			① 横断的な保全管理計画の策定	国・県・町	国	横断的な保全管理計画を策定（連携）	全	9	
					県	横断的な保全管理計画を策定	国・町	10	
					町	綾町森林整備計画の見直し	国・県	11	
3	照葉樹林への効果的・効率的な復元を推進	1 効果的・効率的復元手法を確立する	① 復元の基本方針（構想）を策定する	国・NJ					
			② 復元の手法の確立（復元手法マニュアルの作成）	国・NJ					
		2 計画的な施業を実施する	① 計画的な間伐の実施（国有林、県有林、町有林）	国・県・町	国	人工林から照葉樹林への復元事業		12	
					県	人工林から照葉樹林への復元事業		13	
					町	人工林から照葉樹林への復元事業		14	
			② 持続的な林業経営を行うエリアにおける施業の実施	国	国	持続的林業経営における森林整備		15	
			③ 復元見本林の設置	国・NJ	T	復元見本林の検討（連携）	全	16	
			④ 鳥獣捕獲の実施	国	国	有害鳥獣捕獲事業		17	
		3 市民のプロジェクトの参加を推進する	① 市民参加型の復元作業の実施	国・NJ	国	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	T	18	
4	照葉樹林の調査研究	1 効果的・効率的復元手法を確立する	① 調査研究ワーキンググループの設置、運営	国・NJ	T	調査研究ワーキング設置の検討（連携）	全	19	
			② 基本方針に基づき調査・研究体制の整備	全					
			③ 他のワーキンググループ、調査研究機関との連携	全					
		2 調査・研究のための基本方針（構想）を策定し、計画的に調査を実施する	① 調査・研究の基本方針（構想）を策定	全					
			② 基本方針に基づき毎年度計画的な調査の実施	全					
		3 復元効果を評価する調査研究を推進する	③ 復元に必要なデータの収集と解析	国・NJ	国	照葉樹林復元の動態モニタリング及び各種試験研究成果の整理等についての業務	NJ	20 21	
			① 間伐後の復元状況を評価調査実施（国有林、県有林、町有林）	国・NJ					
		4 人工林等からの照葉樹林への復元手法等を検討する	② データの収集、解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・NJ					
		5 調査・研究成果の共有化及びデータベースを構築する	① 間伐木の処理方法等についての検討	国・T・NJ					
			① 調査・研究成果の情報発信	全					
			② GISを活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ					
			③ 調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ					

※報告書の掲載方法：1事業を1頁にまとめ、短期行動計画の順に並べて掲載。

第Ⅲ期短期行動計画					平成 28 年度事業報告					
項目		第Ⅲ期 課題	行動計画	実施項目	主担当	記載 者	事業名	連携 先	頁	
5	照葉 樹林 を通 して の環 境教 育	照葉 樹林 の重 要性 を学 ぶ環 境教 育の 実施	1 環境教育プログラ ムを策定、実践	① 環境教育を実施するための行動計 画を策定	全	国	環境教育のための行動計画 を策定	全	22	
				② 環境教育エリア内の必要な整備計 画を策定	全	国	環境教育エリア見直しのた めの概況調査	T	23	
				③ 環境教育プログラムを検討し、試 行的に実施	国・ 町・T	町	照葉樹林環境教育講座		24	
					町	生涯学習講座		25		
					T	照葉樹林に親しむイベント の開催（連携）	全	26		
			④ 環境教育エリア内の環境整備	全						
			2 大吊橋周辺、川中 自然公園の活用方法を 検討、整備を行うとと もに環境教育を実践す る	① 大吊り橋周辺、川中自然公園の環 境教育に関する活用方法の検討	T					
				② 必要なルート整備を実施	県・町	県	県有林造成事業		13	
					T	T	遊歩道整備ボランティア作業	県	27	
				③ 崩壊した九州自然歩道について新 たなルートを検討し、今後の活用方法 について提案	県					
6	プロ ジェ クト の情 報発 信	情報 発信 及び 支援 の輪 の拡 大活 動		1 市民や民間企業参 画のためのシステムや メニューづくりを行 い、プロジェクトを推 進する	① 綾プロの支援メニューづくり・企業 の支援メニューづくりを検討し、実践	T				
			② サポーターの募集を行い、会員を 増やす		全	T	会員情報	全	28	
			③ 市民参加型の林床調査を実施する （国有林、県有林、町有林）		全	NJ	市民参加による自然林の復 元調査及び自然林の調査	国・ 町・T	29	
			2 広く一般にプロジ ェクトの内容を知って もらい、会員の拡大を 図る	① バンフレット、リーフレットの作成及び配布	全					
				② ニュースレター、報告書の作成及び配布	全					
				③ HP の作成及び更新	全	国	ホームページ等による情報発信		30	
					T	T	普及啓発事業		31	
				④ フェアラム・シンポジウムを実施	町・T	町	照葉樹林文化シンポジウ ム運営補助		32	
			⑤ 事業説明会の実施	全	国	事業説明会の開催	全	33		
			3 ガイドボランティ アを養成し、市民の理 解を深め、てるはの森 の会の会員増加を図る	① ガイドボランティア事業の実施・ 養成	T	T	環境学習事業・照葉樹林ガイ ドボランティア事業の実施 自然環境ガイド研修事業	町	34	
② ガイドボランティアがガイドを通して市民に綾プロを 理解してもらうためのプログラム作り	T									
4 森林セラピー基地 としての綾町の取り組 みを通して、会員増加 を図る	① 森の案内人を通した照葉樹林の新 たな活用方法を検討し森林セラピー プログラムを作成	町	町	森林セラピー基地整備事業		35				
	② ガイドボランティアとの連携体制についての検討	町・T								
7	照葉 樹林 と共 生し た地 域づ くり	自然 と共 生し た地 域づ くり	1 市民との協働で実 施する運営体制を構築 し、市民が積極的に綾 プロに参画できるように する	① 地域づくりワーキングの設置及び 運営	町・T	T	地域づくりワーキングの設 置と運営・事業補助	町	36	
				② てるはの森の驛の活用方法を検討 し、それに応じて必要な整備	町・T	T	照葉大吊橋 森の驛運営事業	町	37	
				③ ふれあい調査の実施	NJ・ T・町	T	多古羅周辺の調査	国	38	
			2 綾町の他の事業との連携 のあり方を検討し、実行計画を策 定する	①活用方法を検討する市民協議会・ワ ーキングの設置	町・T					
				3 綾ユネスコエコパ ークとの連携による綾 プロを推進する	① ユネスコエコパークとの連携	全	国	綾町森林・林業検討会の開催	県・町	39
			町			町	ユネスコエコパークとの連携	全	40	
			NJ			町	綾町ユネスコエコパーク関連の会議出 席。実施計画策定支援	町	41	
8	生物 多様 性の 保全 管理	生物 多様 性の 保全 管理	1 生物多様性保全のた めの戦略等を策定する	① 綾町の里山周辺の植生調査	NJ					
				② 生物多様性地域戦略策定～ワーキ ングの設置及び運営	NJ・ 町・T					
				③ 生物多様性地域戦略の策定	全					
				④ 生物多様性地域戦略の実施	全	町	綾生物多様性地域戦略 実践 支援事業	NJ	42	

国は九州森林管理局、県は宮崎県、町は綾町、NJは日本自然保護協会、Tはてるはの森の会の略、全は連携会議各機関

1 項目：協働の体制づくり

事業名	(連携) 綾プロ 10 年の評価方法の検討(新規)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	1-1-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾プロ 10 年の活動の評価する方法を検討し、第Ⅳ期短期行動計画作成につなげる。		

○評価するにあたって

平成 17 年～平成 26 年度の 10 年間の活動の評価するに当たり、以下の点に留意している。

- ①綾の照葉樹林プロジェクトの目標達成を示す指標になっているか
- ②市民にとってわかりやすい簡潔な評価の指標になっているか
- ③綾ユネスコエコパークの定期報告にも資するものか
- ④できるかぎり定量的なデータに基づいて評価しているか

なお、この評価はレポートにまとめ、第Ⅳ期短期行動計画に反映される。

○評価の枠組み

復元の度合い、生物多様性の高まり、社会的な広がり、協働関係の機能性、運営の持続性の5つの項目を評価の枠組みとする。

○各評価の枠組みにおける目標と評価内容・指標

評価の枠組み	目標	評価内容・指標
1. 復元の度合い	人工林を照葉樹林に誘導する	①人工林を間伐した林小班の総面積の把握 ②復元の度合いの把握
2. 生物多様性の高まり	全体的に多様性が高まっている	①シカの食害の影響の確認 ②常緑種が何種類あったか
3. 社会的な広がり	多くの人が関心をもって参加している	①綾の森に関する視察・研修・観光・学習・森づくり等対応数 ②協働・協力・支援の数、広がり ③新聞・メディアでの露出数 ④論文、寄稿、講演、表彰の数 ⑤綾プロ主催イベントの市民の参加者数と件数 ⑥てるはの森の会の会員数
4. 協働関係の機能性	役割分担ができてプロジェクトが健全に運営されている	①綾プロ運営に必要な会議等を開催した回数 ②上記会議等の各者担当者数 ③協働で実施するイベントの各者のスタッフ数と件数
5. 運営の持続性	綾プロの持続的な運営がされている	①各者の年間予算 ②綾プロ負担金 ③社会的支援

<平成28年度 綾プロ連絡調整会議における議論・現地調査の経緯>

回	日 時	内 容
1	5 月 20 日	日本自然保護協会から情報提供を受けて会議で議論してく方向性にまとまる
2	6 月 24 日	事務局から 10 年の評価報告を第Ⅳ期短期行動計画に反映させるためのスケジュール案が提案される
3	7 月 14 日	議論なし
4	8 月 29 日	次回までに評価 5 本の柱をもとに 5 者でアイデアをもちよる
5	9 月 30 日	河野(耕)氏、朱宮氏の意見をもとに、事務局より検討案が提出される
6	10 月 31 日	評価方法について詳細を検討
7	11 月 25 日	調査する林分の抽出
8	12 月 26 日	現地にて(国有林) 試行調査。評価シートの再考。
9	1 月 30 日	評価シート修正案の検討
10	2 月 20 日	10 年の評価に筑波大学エコパークアンケートを付録で掲載。綾小・中学生については来年度別途アンケートを実施し掲載。
11	3 月 27 日	社会的な広がりに関するとりまとめのスケジュールを確認

事業名	プロジェクト事務局運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画 -実施項目	1-3-③	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	関係機関との調整、問合せ対応、事業の企画運営などを行なう。 年2回開催の連携会議、月1回開催の連絡調整会議の連絡調整、資料作成等の準備を行う。		

○連携会議

回数	日時	主な議題
24	7月14日	平成27年度の事業報告、平成28年度の事業計画 綾プロの運営について 寄付キャンペーンについて、エコパークアンケート調査結果について
25	2月20日	平成28年度の事業取組状況 (報告)保護林制度改革における綾プロエリア検討状況、 綾プロ保全管理計画経過報告、環境教育基本計画経過報告、 平成29年度調整会議運営の確認、

○連絡調整会議

回数	日時	主な議題
1	5月20日	平成28年度からの綾プロ運営について(確認) 綾・照葉樹林ロングウォーキングについて 第24回綾プロ連携会議について
2	6月24日	県有林 見本林候補地の視察について 保全管理計画案について 第24回綾プロ連携会議について
3	7月14日	第24回綾プロ連携会議について 今後の日程(調整会議、山の日、11月間伐)
4	8月29日	連携事業について(綾プロ10年の評価、調査研究WG、等) 国有林見本林視察について、10周年寄付募集について
5	9月30日	国有林見本林視察について、11月間伐ボランティアについて
6	10月31日	綾プロ10年の評価実施方法について 綾プロ保全課管理計画案について、見本林取り扱いについて
7	11月25日	綾プロ10年の評価について、間伐ボランティアについて
8	12月26日	綾プロ10年の評価について、事業報告会の内容について
9	1月30日	事業報告会の内容について、連携会議、間伐ボランティア
10	2月20日	連携会議について、間伐ボランティアについて
11	3月27日	5月ロングウォークについて、エコパークアンケートについて

※平成28年度より綾プロ事務局が1人体制になったことを受け、調整会議の司会と議事録を5者の輪番制でおこなうことになった。
以下、方針の抜粋。

- ・レジメの作成・印刷は、事務局(てるは)がおこなう
- ・議事録当番は議事録を5者に回す(日本自然保護協会は司会だけの分担)
- ・連携会議の議事録は九州森林管理局

2 項目：照葉樹林の保護

事業名	ナラ枯れ予防対策後のモニタリング調査の実施（新規）	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	2-2-③	連携先	
事業概要 （目的）	綾プロエリア内の国有林で、ナラ枯れ防止のための薬剤注入後のモニタリング調査を実施。		
4月11日、6月14日、7月6日に国有林内の巨木に薬剤注入作業を実施。シイやカシなど6種類の樹木合計53本に注入。経過観察では対象木の完全な枯死は確認されていない。			





事業名	(連携) 横断的な保全管理計画を策定 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	2-3-①	連携先	連絡会議各機関
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリア全域の保全管理計画の策定		
平成27年度の委託事業として、綾プロの取組に沿った保全管理を推進するため国有林エリアにおける「管理計画書（案）」を作成したところであるが、綾プロ全体（町有林・県有林・国有林）での管理計画書を策定するため調整しながら作成していく。			

2 項目：照葉樹林の保護

事業名	横断的な保全管理計画を策定 (新規)	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	2-3-①	連携先	九州森林管理局 綾町
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリア全域の保全管理計画の策定するため、九州森林管理局が策定中の保全管理計画の中に宮崎県の計画を組み込む形での策定を予定している。		
宮崎県は、随時、国、町と調整しながら、九州森林管理局が策定した「管理計画書（案）」に県有林の保全管理計画を組み込んでいる。			

事業名	綾町森林整備計画の見直し（継続）	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	2-3-①	連携先	九州森林管理局 宮崎県
事業概要 (目的)	九州森林管理局が策定中の保全管理計画との連携の中で、平成25年4月に策定した綾町森林整備計画書の見直しを行う。		

綾町森林林業検討会の中で作業部会を立ち上げ、次年度の素案作成を目標に進めている。

参加組織：綾町農林振興課・ユネスコエコパーク推進室・宮崎中央森林組合・宮崎県中部農林振興局
林務課・宮崎森林管理署

実施概要：第1回 5月10日（火） 検討会の議論内容の再確認
第2回 7月 1日（金） 現地視察
第3回 8月 4日（木） 綾町森林整備計画のビジョン、更新・保育・伐採、林業施工
第4回 9月27日（火） 森林整備関係の現状、問題等について議論
第5回 11月30日（水） ゾーニング設定について
第6回 1月 5日（木） 綾町森林整備計画のゾーニング
第7回 2月13日（月） 綾町生物多様性地域戦略のゾーニングとの関連性
第8回 3月10日（金） 地域戦略・マスタープランを反映したゾーニングの検討



3 項目：照葉樹林の復元

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業 (新規)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-2-①	連携先	
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクト復元エリア、保護林エリア、環境教育エリアの国有林内において、人工林を照葉樹林に復元するための間伐作業を実施した。		

綾の照葉樹林プロジェクトエリア毎の復元作業内容

- エリア2、3、5 保護林と保護林との間にある復元エリア及び保護林エリアのスギ・ヒノキ人工林を抜き切りし、かつての照葉樹林へ復元する作業を実施。

間伐面積：78.97ha（2099に外15）

間伐状況（2099林班）



事業名	人工林から照葉樹林への復元事業（継続） 県有林造成事業（継続）	実施主体	宮崎県
項目-行動計画- 実施項目	3-2-① 5-2-②	連携先	
事業概要 （目的）	針・広混交林化を進めるエリア等において、スギ人工林の間伐を実施した。また、森林環境教育・保健休養的利用を図るとともに、人工林の針・広混交林化を進めるエリアにおいて、獣害防除及びカヤの植栽を実施した。		

※短期行動計画の内容に重複する部分があることから、2項目の事業報告をまとめて行う。

1 間伐（列状間伐30%）

（1）場 所 針・広混交林化を進めるエリア（22林班）

（2）面 積 1.46ha

（3）時 期 11月～3月



間伐前

間伐後

2 獣害防除（忌避剤散布）、防護柵設置及びカヤの補植

（1）場 所 25世紀の森（カヤとスギの複層林）

（2）面 積 3.23ha

（3）時 期 1月～3月



忌避剤散布

カヤ植生状況

3 項目：照葉樹林の復元

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業（継続）	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	3-2-①	連携先	
事業概要 (目的)	綾プロエリア内町有林の保護、復元に伴う作業の検討及び検証		

綾町総務課(消防管財係)・農林振興課・ユネスコエコパーク推進室とで、今後の管理の方向性について協議を行った。

復元事業対象は百ヶ倉町有林と大口町有林の59林班ア-3、小屋ヶ谷町有林と大口町有林の59林班ア-3以外は持続的森林経営とすることとなった。



①調査地
59林班ア-3
4.32ha
スギ人工林
30年生



シカの糞を撮影

綾プロ10年の評価 町有林調査ブログ

事業名	持続的林業経営エリアにおける森林整備 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-2-②	連携先	
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの持続的林業経営エリアにおいて、水土保持機能を高めるため保育間伐等を実施した。		

綾の照葉樹林プロジェクト持続的林業経営エリアの作業内容

エリア 10、11 水土保持機能を高めるための保育間伐作業を実施
間伐面積：76.67h a (2139 は外 14)

間伐状況 (2139 林班)



3 項目：照葉樹林の復元

事業名	(連携) 復元見本林の検討(新規)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	3-2-③	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	国・県・町からそれぞれ候補地をあげてもらい、視察を通して、見本林として適した箇所を選定する。		

綾の照葉樹林プロジェクトが照葉樹林の復元に向けて進める取組の成果を評価し、課題や問題点からよりよい復元の取り組みを進めることを目的として見本林を設置する。

国・県有林の候補地を現地調査し、国・県・町有林の見本林予定地をあげた。「見本林取り扱い(案)」では、設置基準や箇所、必要な情報や整備、取扱いについて明記することとし、平成29年度中の見本林設置終了を目指して取り組んだ。



県有林 27 林班
ウー1-1
外観



県有林 27 林班ウー1-1 内部



県有林 28 林班ウー1



国有林 2050 57 号 2 (多古羅)

事業名	綾プロエリア等における有害鳥獣捕獲 (新規)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-2-④	連携先	
事業概要 (目的)	綾南林道沿いにおいて、森林生態系等に係る鳥獣被害防止を目的に森林保全再生整備事業として鳥獣の誘引捕獲事業を実施した。		

森林保全再生整備に係る鳥獣の誘引捕獲事業の作業内容

綾南林道沿いにおいて、くくり罠を適宜設置し、一時的な餌付けによりニホンジカを誘引し捕獲する作業を繰り返し実施した。

捕獲頭数:26頭

誘引捕獲実施状況(柚園国有林2047林班)



3 項目：照葉樹林の復元

事業名	照葉樹林復元ボランティア作業の実施 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	3-3-①	連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	中尾国有林において、照葉樹林復元のための間伐作業を実施した。		

平成 17 年の協定締結以来、一般企業、学生、NPO、綾町民、一般市民等、様々なボランティアの方々による照葉樹林への復元を図るための間伐作業を実施しており、平成 28 年度の第 1 回目の作業を 11 月 26 日に宮崎県綾町中尾国有林 2045 に 4 林小班に設定しているボランティア用見本林において、昨年度に引き続きソーラーフロンティア社（本社、宮崎・国富工場）の職員及び家族 38 人が参加し実施された。

また、第 2 回目の作業については、2 月 21 日に実施し、ダイワハウスの職員及び一般参加の方々、25 人が参加し実施された。

両日とも天候にも恵まれ、職場の仲間・家族等と一緒に楽しく作業を行い、参加者からは「貴重な経験ができた。今後もボランティアに参加し、森を守る活動を続けていきたい」「きつかったが楽しかった」「貴重な経験ができた」などの声が聞かれた。



事業名	(連携) 調査研究ワーキング設置の検討(新規)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	4-1-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	効率的・効果的な復元手法を確立するためのワーキング設置について、実現可能な方法を探る。		
平成28年7月11日開催の第24回連携会議にて意見があがり、本事業について検討することとなった。 平成28年8月29日開催の第4回連絡調整会議にて、議題に取り上げ検討した。現在ある諸課題、例えば保護林改編について、綾プロエリア拡大について、環境教育エリア8取り扱いについて、復元見本林設置について、効果的な復元方法の検討、等々について、調査研究ワーキングの中で具体的に検討していくことを事務局から提案した。議論の結果、当初日本自然保護協会を中心に設置したワーキングは調査研究の情報収集と研究の推進をするためのものであり、現在の諸課題解決のためのワーキングとは趣旨が異なるとの意見から、調査研究ワーキングは設置せず、調整会議の中で議論を進めて行くこととなった。			

4 項目：照葉樹林の調査研究

事業名	照葉樹林復元の動態モニタリング及び各種試験研究成果の整理等についての業務（新規）	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画-実施項目	4-2-③	連携先	NACS - J
事業概要（目的）	綾プロエリア内で、過去に設定した調査プロットについて動態調査を実施するとともに、これまで実施した調査研究の成果を取りまとめ照葉樹林への効率的・効果的な復元に資するための整理を行う。		

★距離別実生発生調査

周辺の保護樹帯等から人工林の中に照葉樹林構成種や他の広葉樹の種子がどの程度進入し発芽しているかを把握すると同時に、間伐が実生発生に与える効果を検証する。

○間伐は林床照度を増加させ、発芽、稚樹の生育を促進させている効果が見られる。

○間伐未実施の場合は、上部に種子供給源があっても下層の実生個体数は増加せず、変化がない。

○種子供給源となる保護樹帯等から距離が離れるに従い、実生出現個体数は減少する。

○シカによる採食圧が長期間であった場合、間伐等の施業を行っても発芽可能な種子が減少し、すぐには個体数の増加には繋がらない。

★種子供給源・供給量調査

種子供給源となる人工林に隣接した照葉樹林や落葉広葉樹林を調査することで、種子を供給する広葉樹の生育状況や樹種構成を把握し、効率的な照葉樹林復元に向けての基礎資料を収集する。

○天然林では標高に応じた樹種構成が見られたが、二次林では標高に応じた樹種構成が見られたが、二次林では標高が同じでも、地形条件によって樹種構成にばらつきが見られる。高標高地においては照葉樹ではアカガシ・シキミ等が、落葉広葉樹ではブナ・ヒメシャラ等が種子供給源となる。

○種子供給源に存在する種で、人工林には見られなかった種が多く見られ、隣接する森林でも必ずしも種子が供給される訳でもない。一方で種子供給源には存在しないが、人工林で出現した種も多く出現していることから、広い空間スケールから種子の供給を受けていることが示唆される。

○隣接する森林の存在だけでなく、より広いスケールの森林環境や種子散布を担う動物の生息を考慮することも重要である。

★シカ影響調査

植生にシカが与える影響を把握するため、シカの採食圧を排除した場合の照葉樹等の更新状況等を調査し、実生発生・生存に対するシカネットの効果を検証する。

○シカネットの効果が明確ではないプロットが多いが、種子供給源となる母樹が近くにある河川沿いに設置した1プロットでは効果が現れ始めている。

○残りの4プロットにおいては、種子供給源からの距離が離れていることや、シカネット設置前に長期にわたってシカによる食害を被り、埋土種子が枯渇している可能性があることから、今後もモニタリングを継続し、シカネットの効果を検証する必要がある。

★播種による実生定着効果の検証

シカの採食圧を排除した状況で播種による実生の発生を検証し、播種による手法が照葉樹林復元に果たす役割について評価する。

○復元を行うレベルでの大量の種子を採取し播種するという作業は技術的に容易ではない。

○種子の豊凶を観察し、順応的に復元の手助け（間伐）をする必要がある。

○種子生産や散布・発芽等については不明な点が多いため、1回の調査結果のみで有効性を判断することは難しい。

★ブナ科植物の生育状況に係る要因調査

照葉樹林の主要高木種であるブナ科植物の生育状況と、各プロットの環境要因との相関関係を整理し、ブナ科実生の生育に効果的な環境要因を抽出する。

○ブナ科植物の実生本数と高い相関性が見られたのは、斜面の位置と植栽木以外の立木密度であった。

○斜面位置と実生の数には負の相関があり、斜面下部の方が、実生が発生しやすい傾向が見られ、気温や湿度等の環境条件が関連している可能性がある。また、植栽木以外の立木密度とは高い正の相関があり、植栽木以外の種が多く進入している箇所の方が生育に有利な傾向が見られた。

○復元のための間伐を進める上で、植栽木以外の広葉樹を出来るだけ残すことが重要。

★実生発生の環境要因との関係整理調査

実生の数と環境要因の関係を明らかにするため各要因の影響の強さを評価した。

○施業タイプ・施業後の年数・広葉樹密度・傾斜・斜面方位・種子供給源からの距離・シカネットの有無を変数として分析を行ったところ、実生本数に対して群状間伐はマイナス、施業後の年数もマイナス、傾斜はプラスという結果であり、傾斜があるほど地形が複雑となり、シカのアクセスが阻害され実生の生存や伸長に効果があると示された。

○傾斜が緩い場所では、間伐に加えてシカネットを設置するなどの対応が必要。

★間伐の試行伐採による実生発生状況調査

様々な伐採方法を試行し、実生発生の促進効果を検証し、各間伐方法の効果と今後の持続性について調査した。

○間伐後4年目における間伐手法の評価

評価項目	評価の視点	間伐手法			
		50% 定性間伐	20m 群状間伐	30m 群状間伐	2残5伐列状間伐
光環境改善効果	効果あり・なし	△	◎	◎	○
	4年目までの継続性	×	◎	◎	○
	今後の継続性	×	◎	◎	△
前生稚樹の 成長促進効果	効果あり・なし	—	○	○	○
	4年目までの継続性	○	○	○	○
	今後の継続性	△	◎	◎	◎
新規加入実生の 定着促進効果	効果あり・なし	○	○	○	○
	4年目までの継続性	○	○	△	○
	今後の継続性	△	○	△	△

◎：大いに効果あり

△：少しは効果あり

○：効果あり

×：効果なし

5 項目：照葉樹林を通しての環境教育

事業名	(連携) 環境教育のための行動計画を策定 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	5-1-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	環境教育エリアの活用、また、環境教育実践のための基本方針を綾プロ内で決定する。		
平成26年12月に中間取りまとめが行われているが、最終的な基本方針の取りまとめが出来ていないことから、環境教育エリアや活動の見直しも含め、調整しながら策定に向け継続して取り組む。			

事業名	環境教育エリア見直しのための概況調査 (新規)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	5-1-①	連携先	てるはの森の会・ 綾町
事業概要 (目的)	綾プロエリア内の環境教育エリアについて、実質的なエリアを検討するための概況調査を実施。		
綾プロ対象地での国有林では、目的に応じて保護林エリア（①、②、④、⑦）・人工林からの復元エリア（③、⑤）・二次林からの復元エリア（⑥）・環境教育エリア（⑧、⑨）・持続的林業経営エリア（⑩、⑪）に区分して、各エリアの目的に沿った活動を実施しているところであるが、その中で環境教育エリア（⑧、⑨）については、立地条件等から環境教育の場としての利用が難しく、現時点であまり利用がされていないことから、新たに環境教育の場として利用可能な箇所の選定、及び全体的なエリア見直しが必要となっている。 このことから、川中・多古羅川周辺の森林資源の状況把握、かつて稼働していた森林軌道・製材所についての概要や、そこで暮らしていた方からの聞き取り調査、河川を利用した自然環境学習に利用するための情報収集を実施した。 今後、調査結果をもとに綾プロにおいて環境教育エリアの見直しや、間伐ボランティアに変わる環境教育プログラムについて検討していくこととする。			

5 項目：照葉樹林を通しての環境教育

事業名	照葉樹林環境教育講座（継続）	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	5-1-③	連携先	
事業概要 （目的）	綾小中学生に対する環境教育の実施		

■綾の自然についての講話

1. 日 時：平成28年6月2日（木）

2. 場 所：綾中学校

3. 内 容：総合的な学習の時間の一環で、綾中学校1年生63名に対し、綾の自然環境の講話を行った。

■綾の自然についての調べ学習

1. 日 時：平成28年6月9日（木）

2. 場 所：綾てるは図書館

3. 内 容：6月2日に実施した綾の自然環境についての講演を受け、図書館で調べ学習を行うということで、そのサポートを行った。

■綾の自然を学ぶ野外学習

1. 日 時：平成28年6月23日（木）

2. 場 所：綾照葉大吊橋・ビオトープ

3. 内 容：地元綾の自然についての理解を深めるために、先に実施した綾の自然環境についての講演、および図書館での調べ学習ののち、照葉樹林や生き物などの説明と自然観察を行った。

1. 日 時：平成28年5月17日（火）、6月7日（火）、6月16日（木）、6月21（火）

2. 場 所：ビオトープ

3. 内 容：総合的な学習の一環で、綾小学校の4年生65名を対象に自然環境教室（ビオトープ観察会）を実施した。



事業名	生涯学習講座(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	5-1-③	連携先	
事業概要 (目的)	町民を対象に照葉樹林文化を学ぶ講座を開設(教育委員会主催)		

講座実施状況(6月から実施 延べ196名参加)

回数	日程	参加人数	開催場所	内 容	講 師
第1回	6月14日 (火)	24名	竹野周辺	植物観察	河野耕三
第2回	7月12日 (火)	23名	北麓周辺	植物観察・修験道の滝	河野耕三
第3回	8月9日 (火)	26名	野首谷遊歩道	里の植物観察	河野耕三
第4回	9月13日 (火)	21名	尾立周辺	史跡跡、尾立物見やぐら	河野耕三
第5回	10月11日 (火)	21名	倉輪地区	棚田と周辺の植物観察	河野耕三
第6回	11月8日 (火)	16名	川中セラピーコース	炭焼釜跡、製材所跡等の見学	河野耕三
第7回	12月13日 (火)	16名	宮原	明見神社、馬頭観音等の見学	河野耕三
第8回	1月10日 (火)	14名	役場周辺	武家屋敷、里の植物観察	河野耕三
第9回	2月14日 (火)	16名	三本松周辺	河川の植物観察、湾処	河野耕三
第10回	3月14日 (火)	19名	古屋公園	春の植物観察	河野耕三



【2月 三本松周辺】



【3月 古屋公園】

5 項目：照葉樹林を通しての環境教育

事業名	(連携) 照葉樹林に親しむイベントの開催(新規)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施 項目	5-1-③	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	町民を対象に、照葉樹林に親しむ散策や体験等を企画し、綾プロへの理解を深める		

活動報告

事業名 綾・照葉樹林ロングウォーキング
 実施日 2016 年 5 月 21 日(土) 9:00~14:00 (集合:綾町役場裏駐車場)
 実施場所 県道 26 号線(吊橋第 4P~川中自然公園:山菜のふるまい)
 参加人数 参加者 23 名、スタッフ 23 名
 ガイド 河野耕三、河野円樹、朱宮丈晴、猪崎悦子、駒田勤
 主催 綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会(事務局:てるはの森の会)
 予算 てるはの森の会(参加無料)

5月21日(土) 晴天スケジュール

時間	内容	場所
8:00	スタッフ集合・ミーティング	綾町役場裏駐車場
8:15~8:50	会場設営	
8:50~9:00	受付開始、グループ分け	〃
9:00~9:10	開会式 挨拶	〃
9:10~9:30	マイクロバス乗車(吊橋第 4P へ移動)	〃 出発
9:30~9:35	マイクロバス下車	大吊橋第 4 駐車場
9:35~12:00 (~12:30 最終)	ロングウォーク出発 5 班でウォーキング (約 3.5km)	〃 出発 県道 26 号
12:00~13:20	ロングウォーク到着 昼食(各自持参)・自由 天ぶら振る舞い・アンケート	川中自然公園駐車場
13:20~13:30	閉会式 挨拶	〃
13:30~14:00	マイクロバス乗車	〃 出発
14:00~14:10	マイクロバス下車、参加者解散	綾町役場裏駐車場
14:10~14:30	会場片付け	
14:30	解散	

参加者23名 (町民19名、町外4名) (会員8名、会員外15名) (30代1名、50代4名、60代13名、70代5名)
 (女性18名、男性5名)

事業名	遊歩道整備ボランティア作業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目－行動計画－ 実施事項	5-2-②	連携先	宮崎県
事業概要 (目的)	照葉大吊橋付近の県有林遊歩道を整備し、新たな散策ルートとして活用する。		

【歩道の整備】

- ◆実施日：10月18日（火） 12:00～15:00
 参加者：2名（会員1名、スタッフ1名）
 その他：遊歩道の通行確認と枝落とし



通行をふさぐ場所のみ枝落とし



落石注意場所を確認

- ◆実施日：2月28日（火） 10:00～14:00
 参加者：2名（会員2名）
 その他：歩道の通行確認と落ち葉かき等による整備

【ガイド】

- ◆実施日：11月8日（火） 8:30～11:30
 参加者：18名（一般14名、スタッフ4名）
 その他：日本山岳会高尾の森づくりの会
 （日本の美林見学会）



入口看板でコース説明

6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	会員情報(継続)	実施主体	てるはの森の会											
項目-行動計画- 実施項目	6－1－②	連携先	全											
事業概要 (目的)	官民協働プロジェクトを推進するため、市民参加の窓口としててるはの森の会会員へ入会を募集するほか、賛同者の寄付による参加を募集する。													
○正会員数　：H29.3.31現在 10名（内、理事5名） ○賛助会員数：H29.3.31現在 個人サポート会員　122件 法人サポート会員　26件 団体サポート会員　10件 ○会費収入：572,000円 ○寄付金収入：559,207円 <table><tr><td>10周年寄付キャンペーン</td><td>435,500</td><td rowspan="5">宮崎森林管理署手当</td></tr><tr><td>個人寄付</td><td>70,555</td></tr><tr><td>イベント等募金・ その他寄付</td><td>34,676</td></tr><tr><td>てるは大吊橋募金箱</td><td>18,476</td></tr><tr><td>計</td><td>559,207</td></tr></table> 【10周年寄付キャンペーン内訳】総額435,500円 ◎寄付額：1万円未満 ・会員　30名　65,000円 ・非会員29名　36,000円 ◎寄付額：1万円以上 ・会員　16名304,500円 ・非会員　3名　30,000円				10周年寄付キャンペーン	435,500	宮崎森林管理署手当	個人寄付	70,555	イベント等募金・ その他寄付	34,676	てるは大吊橋募金箱	18,476	計	559,207
10周年寄付キャンペーン	435,500	宮崎森林管理署手当												
個人寄付	70,555													
イベント等募金・ その他寄付	34,676													
てるは大吊橋募金箱	18,476													
計	559,207													

事業名	市民参加による自然林の復元調査(継続)及び自然林の調査(継続)	実施主体	N A C S - J
項目-行動計画-実施項目	6-1-③	連携先	綾町、てるはの森の会、九州森林管理局、宮崎県
事業概要 (目的)	綾プロエリア内の間伐事業実施後の林床植生の組成や構造を明らかにすること(国有林、県有林)、参加した市民に復元の状態を知ってもらいプロジェクトに関心を持ってもらうことを目的する。		

国有林と県有林における市民参加の林床植生調査の実施

2016年11月25日に国有林(2045に林小班)で実施し、ボランティアの市民が10名(うち2名スタッフ)参加した。2017年2月25日に県有林(27林班ウ-1-1)で実施し、ボランティアの市民が12名(うち3名スタッフ)が参加した。国有林は前回2006年10月21日と2010年12月19日に調査が行われた。県有林は2009年9月7日に調査が行われた箇所を再調査した。国有林に関しては、樹冠投影図を作成した。その結果、間伐後も常緑広葉樹の侵入は見られたが、ニホンジカの影響により間伐前よりも優占度が減少していることがわかった。

表1 生活形ごとの相対優占度(%)の変化(国有林)

生活形	相対優占度(%)		
	2006年	2010年	2016年
針葉樹	6.3	9.2	59.8
常緑高木種	33.2	11.4	3.6
常緑低木種	56.3	69.6	27.4
落葉高木種	0.4	1.0	1.9
落葉低木種	0.3	2.5	2.1
草本植物	0.7	2.1	3.0
ツル植物	2.4	3.3	1.9
シダ植物	0.2	0.9	0.4
不明	0.3	0.1	
合計	100.0	100.0	100.0

写真1 2016年11月25日に実施された林床調査



6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	ホームページ等による情報発信 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-2-③	連携先	
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトでの取組について、局ホームページ等に掲載し広く情報を発信する。		
○九州森林管理局のホームページに平成28年度までの各種取り組みについて掲載し、情報を発信した。 http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/torikumi.html ○九州森林管理局で発行している広報誌「広報 九州」にも、各種会議、イベント等を掲載し、情報発信した。 http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/koho/koho_si/koho_kyusyu/index.html			

事業名	普及啓発事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画-実施項目	6-2-③	連携先	全
事業概要 (目的)	ホームページの更新やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。 ホームページ上にて報告書を掲載。		

○広報誌「照葉樹林だより」の発行

- ・第 46 号 7 月 31 日発行：
「H27 年度活動報告」
「ナラ枯れ予防剤の樹幹注入について」他
- ・第 47 号 1 月 1 日発行：9 月 12 月合併号
「日向夏栽培とニホンミツバチ」
「ユネスコエコパークの
最近の動向と世界の BR」他
- ・第 48 号 3 月 31 日発行：
「ニホンジカが綾の森を食べはじめた
時期と場所を探る」
「綾ユネスコエコパークについての
住民アンケート調査報告」他

○てるはの森の会のホームページ

<http://teruhanomori.com/>

○てるはの森の会 facebook での情報発信

○視察対応 (計 4 回 23 名)

10 月 17 日	月	宮崎県職員研修	5 名
11 月 15 日	火	JICA パプアニューギニア研修	6 名
11 月 26 日	土	フォレストマントル上鹿川	11 名
12 月 15 日	木	ヤマビル研究会 谷重和	1 名

○広報 (計 5 回)

12 月 1 日	木	Web 版環境省広報誌『エコジン』
11 月 12,13 日	土日	綾町総合文化祭展示
11 月 27 日	日	綾町工芸まつり
12 月 4 日	日	照葉樹林クリーンアッププロジェクト
2 月 12 日	日	綾プロボランティア表彰(事業報告)



綾町総合文化祭パネル出展
(11 月 12, 13 日)



綾町工芸まつりブース出展
(11 月 27 日)

6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	照葉樹林文化シンポジウム運営補助(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	6-2-④	連携先	綾の自然と文化を 考える会
事業概要 (目的)	実行委員会への補助		

【第22回 照葉樹林文化シンポジウム】

日 時 平成29年3月19日(日)午後1時30分～午後5時 交流会 午後6時～
場 所 綾川荘2階大広間
参加人数 45名

挨拶	シンポジウム実行委員長 郷田美紀子 綾町長 前田穰
講演	「神棲む森の思想」 高山文彦氏
綾神楽復元への 第一歩	神事 神楽奉納 神楽習い披露 神楽ワークショップ(コーディネーター:高見乾司氏)

- ・第19回から継続して、「綾神楽復元」に取り組んできたが、その仕上げとして、今回は、「綾神楽第2番」を披露し、本格的な復元に向けた第一歩を踏み出した。



事業名	(連携) 事業説明会の開催 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	6-2-⑤	連携先	連絡会議各機関
事業概要 (目的)	綾町町民等を対象に事業説明会を開催し、各機関での取組を説明する。		

綾町民を対象に毎年開催している、綾プロの事業説明会を2月12日の「綾町公民館大会」に合わせて実施した。

当日は、綾町公民館ホールにおいて宮崎森林管理署より綾プロの概要や活動の広がりについて説明するとともに、綾プロエリア内、町有林の「大口遊歩道」整備に尽力された大津留司さん、「げんだぼの森」の整備に尽力された藤本綾子さんを、綾の照葉樹林プロジェクトが目指す官民協働に大きく貢献したとして、綾プロから表彰した。





6 項目：プロジェクトの情報発信

事業名	環境学習事業 照葉樹林ガイドボランティア事業補助(継続) 自然環境ガイド研修事業(新規)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画 -実施項目	6-3-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	大吊橋周辺遊歩道などで照葉樹林の貴重さや綾プロを普及させるため、照葉樹林ガイドボランティア実践活動やプロジェクトの視察対応、広報活動を行う。		

① 照葉樹林ガイドボランティア実践活動

代表的景勝地大吊り橋周辺遊歩道2kmをボランティアガイドの案内で散策する。

参加者合計 12回 277名

実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数
4月	なし	—	8月	なし	—	12月	1回	3名
5月	1回	23名	9月	1回	42名	1月	なし	—
6月	1回	43名	10月	2回	66名	2月	なし	—
7月	1回	15名	11月	2回	17名	3月	3回	68名

※川中でのガイド・環境教育計3回96名を含む

②照葉樹林ガイド スキルアップ研修

九州自然協議会in大分にて豊後大野市ジオサイトツアーに参加しガイド研修とした

③自然環境ガイド研修事業

綾町の委託を受け実施。対象者は森林セラピーガイド、照葉樹林ガイド、綾里ガイド等。
(計8回延べ160名参加)

	講座名(仮)/講師	日程
第1回	『綾町の自然を守る町づくりの歴史』 講師：曾我 傑氏(綾町地域おこし協力隊) 参加者 30名、スタッフ4名(全2回延べ)	①11月30日(水) 19:00~20:30 綾町役場会議室
		②12月3日(土) 10:30~12:00 綾町役場会議室
第2回	『ヤマビルの生態と対処法について』 講師：谷 重和氏(一般財団法人ヤマビル研究会) 参加者 26名、スタッフ4名	12月15日(木) 18:30~20:30 綾町役場会議室
第3回	『野外活動におけるリスクマネジメントについて』 講師：宮地 元氏(NPO法人みずのとらBELL隊) <座学>参加者 26名、スタッフ6名(全2回、延べ) <フィールドワーク> 参加者 42名、スタッフ6名(全2回、延べ)	<座学> ①1月16日(月) 13:30~16:30 綾町役場会議室 ②1月27日(金) 13:30~16:30 綾町役場会議室
		<フィールドワーク> ①1月17日(火) 13:30~15:30 ひやらひゃーつウォーク馬事公苑野首谷コース
		②1月28日(土) 13:30~15:30 川中森林セラピーコース
第4回	『救命入門・応急手当基礎講習』応急手当研修センター (心肺蘇生法・AEDの使用法・止血法・搬送法、など) 参加者 14名、スタッフ2名	2月17日(金) 14:00~16:00 綾町教育委員会 高年者研修センター

※その他、綾里ガイド研修3コース延べ8回実施

④上畑体験ツアー・視察受け入れを3月20日、3月28日に実施した。延べ31名参加。

事業名	森林セラピー基地整備事業(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	6-4-①	連携先	
事業概要 (目的)	森林セラピー推進協議会で、ロードの整備、案内人の募集・養成を行う		
① 森林セラピーガイド 森林セラピーガイドを 10 回、168 人に対して実施した。 現在ガイドは 20 人が登録している。 ② 森林セラピー関係機関会議 ○全国ネットワーク会議 会員 51 団体 ・総会（東京） 7 月 13 日（水）・14 日（木） 綾町は理事 ○九州・沖縄ネットワーク会議 会員 11 団体 ・総会(鹿児島県霧島市) 5 月 31 日（火） ・担当者会（基地持ち回り） 2 回 5 月 12（木）・13 日（金） 宮崎県日南市 2 月 16（木）・17 日（金） 大分県大分市 ・イベント			

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	地域づくりワーキングの設置と運営 事業補助(継続)	実施主体	てるはの森の会																																																								
項目-行動計画- 実施項目	7-1-①	連携先	綾町																																																								
事業概要 (目的)	地域づくりWGは、綾プロジェクトの推進体制や当プロジェクトを活用した地域振興等に関する事項を検討し、住民参加を促すことを目的とする。 平成 24 年より綾町の地域自然調査 (MAP づくり) を進めてきた綾里歩きコース「綾ひやらひやーつウォーク」3 コースのお披露目イベントを開催することができた。 今年度から制定された 8 月 11 日山の日、地域づくり WG 委員の生業やふれあい調査結果を活かした森の散策を実施することができた。 ワーキング委員会実施スケジュール <table> <tr> <th></th><th>日 程</th><th>委 員 会 の 内 容</th><th>参 加 人数</th></tr> <tr> <td>1</td><td>6 月 29 日 (水) 19:00~21:00</td><td>1. 平成 28 年度 ワーキング委員メンバーについて 2. 平成 28 年度 活動計画 (案) について 3. その他</td><td>10 人</td></tr> <tr> <td>2</td><td>7 月 20 日 (水) 19:00~21:00</td><td>1. 山の日「猟師と行く川中ツアー」(8/11)企画について 2. 視察について 3. その他</td><td>9 人</td></tr> <tr> <td>3</td><td>10 月 18 日 (火) 19:00~20:30</td><td>1. 今後の予定について</td><td>10 名</td></tr> <tr> <td>4</td><td>11 月 22 日 (火) 19:00~20:30</td><td>綾里ウォーク全体企画案の検討</td><td>12 名</td></tr> <tr> <td>5</td><td>12 月 19 日 (月)</td><td>綾里ウォーク全体企画案の進捗状況報告</td><td>13 名</td></tr> <tr> <td>6</td><td>1 月 17 日 (火) 19:00~20:30</td><td>ひやらひやーつウォークお披露目イベントについて</td><td>12 名</td></tr> <tr> <td>7</td><td>2 月 15 日 (水) 19:00~20:30</td><td>ひやらひやーつウォークお披露目イベントについて</td><td>7 名</td></tr> </table> その他事業実施スケジュール <table> <tr> <th></th><th>日 程</th><th>事 業 内 容</th><th>参 加 人数</th></tr> <tr> <td>1</td><td>8 月 11 日 (木・祝) 9:00~13:30 参加人数 22 名、スタッフ 12 名</td><td>「猟師と行く川中ツアー」 ガイド 小西俊一</td><td>34 人</td></tr> <tr> <td>2</td><td>9 月 15 日 (木) 9:00~19:00</td><td>鹿児島県始良市錦江湾 なぎさミュージアム視察</td><td>10 人</td></tr> <tr> <td>3</td><td>3 月 4 日 (土) 9:30~12:00 参加者 19 名、ガイド 6 名、スタッフ 3 名</td><td>綾ひやらひやーつウォークお披露目イベント 錦原・綾城コース</td><td>28 名</td></tr> <tr> <td>4</td><td>3 月 20 日 (月・祝) 9:30~11:30 参加者 15 名、ガイド 3 名、スタッフ 1 名</td><td>綾ひやらひやーつウォークお披露目イベント 上畑コース</td><td>19 名</td></tr> <tr> <td>5</td><td>3 月 20 日 (月・祝) 9:30~11:30 参加者 8 名、ガイド 3 名、スタッフ 6 名</td><td>綾ひやらひやーつウォークお披露目イベント 宮原コース</td><td>17 名</td></tr> </table>				日 程	委 員 会 の 内 容	参 加 人数	1	6 月 29 日 (水) 19:00~21:00	1. 平成 28 年度 ワーキング委員メンバーについて 2. 平成 28 年度 活動計画 (案) について 3. その他	10 人	2	7 月 20 日 (水) 19:00~21:00	1. 山の日「猟師と行く川中ツアー」(8/11)企画について 2. 視察について 3. その他	9 人	3	10 月 18 日 (火) 19:00~20:30	1. 今後の予定について	10 名	4	11 月 22 日 (火) 19:00~20:30	綾里ウォーク全体企画案の検討	12 名	5	12 月 19 日 (月)	綾里ウォーク全体企画案の進捗状況報告	13 名	6	1 月 17 日 (火) 19:00~20:30	ひやらひやーつウォークお披露目イベントについて	12 名	7	2 月 15 日 (水) 19:00~20:30	ひやらひやーつウォークお披露目イベントについて	7 名		日 程	事 業 内 容	参 加 人数	1	8 月 11 日 (木・祝) 9:00~13:30 参加人数 22 名、スタッフ 12 名	「猟師と行く川中ツアー」 ガイド 小西俊一	34 人	2	9 月 15 日 (木) 9:00~19:00	鹿児島県始良市錦江湾 なぎさミュージアム視察	10 人	3	3 月 4 日 (土) 9:30~12:00 参加者 19 名、ガイド 6 名、スタッフ 3 名	綾ひやらひやーつウォークお披露目イベント 錦原・綾城コース	28 名	4	3 月 20 日 (月・祝) 9:30~11:30 参加者 15 名、ガイド 3 名、スタッフ 1 名	綾ひやらひやーつウォークお披露目イベント 上畑コース	19 名	5	3 月 20 日 (月・祝) 9:30~11:30 参加者 8 名、ガイド 3 名、スタッフ 6 名	綾ひやらひやーつウォークお披露目イベント 宮原コース	17 名
	日 程	委 員 会 の 内 容	参 加 人数																																																								
1	6 月 29 日 (水) 19:00~21:00	1. 平成 28 年度 ワーキング委員メンバーについて 2. 平成 28 年度 活動計画 (案) について 3. その他	10 人																																																								
2	7 月 20 日 (水) 19:00~21:00	1. 山の日「猟師と行く川中ツアー」(8/11)企画について 2. 視察について 3. その他	9 人																																																								
3	10 月 18 日 (火) 19:00~20:30	1. 今後の予定について	10 名																																																								
4	11 月 22 日 (火) 19:00~20:30	綾里ウォーク全体企画案の検討	12 名																																																								
5	12 月 19 日 (月)	綾里ウォーク全体企画案の進捗状況報告	13 名																																																								
6	1 月 17 日 (火) 19:00~20:30	ひやらひやーつウォークお披露目イベントについて	12 名																																																								
7	2 月 15 日 (水) 19:00~20:30	ひやらひやーつウォークお披露目イベントについて	7 名																																																								
	日 程	事 業 内 容	参 加 人数																																																								
1	8 月 11 日 (木・祝) 9:00~13:30 参加人数 22 名、スタッフ 12 名	「猟師と行く川中ツアー」 ガイド 小西俊一	34 人																																																								
2	9 月 15 日 (木) 9:00~19:00	鹿児島県始良市錦江湾 なぎさミュージアム視察	10 人																																																								
3	3 月 4 日 (土) 9:30~12:00 参加者 19 名、ガイド 6 名、スタッフ 3 名	綾ひやらひやーつウォークお披露目イベント 錦原・綾城コース	28 名																																																								
4	3 月 20 日 (月・祝) 9:30~11:30 参加者 15 名、ガイド 3 名、スタッフ 1 名	綾ひやらひやーつウォークお披露目イベント 上畑コース	19 名																																																								
5	3 月 20 日 (月・祝) 9:30~11:30 参加者 8 名、ガイド 3 名、スタッフ 6 名	綾ひやらひやーつウォークお披露目イベント 宮原コース	17 名																																																								

事業名	照葉大吊橋森の驛運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会・
項目-行動計画 -実施項目	7-1-②	連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」(1F:無料休憩所、照葉樹林に関するビデオコーナーやパネル等を展示、2F:木のおもちゃで遊べる木育体験コーナー、3F:飲食物を提供する軽食堂)を運営する。		

○3F: 飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」

○2F: 木育広場として活用



食堂のようす



木育広場

○1F: 森の紹介ビデオコーナー



ビデオコーナー

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	多古羅周辺の調査(新規)	実施主体	てるはの森の会
項目-行動計画- 実施項目	7-1-③	連携先	九州森林管理局
事業概要 (目的)	これまで「ふれあい調査」で川中周辺のトロッコ道と沿線での人々の暮らしを調査している。合わせて多古羅周辺でも聞き取り調査を行っており、それらを記録にまとめるほか、環境教育での利用の可能性を調査する。		

2017年2月13～15日にかけて、宮地元（NPO法人みずのとらBELLE隊 熊本）を招き、環境教育で多古羅川の利用の可能性について調査した。同時に、川中自然公園駐車場、大吊橋周辺についても調査した。

この調査結果と、昨年度まで実施した「ふれあい調査」の聞き取りデータを記録にまとめた。



多古羅で青年期を過ごした井ノ口三郎氏が同行



アクセスポイント



取水場所での川体験活動を検討

事業名	綾町森林・林業関係検討会の開催 (継続)	実施主体	九州森林管理局
項目-行動計画- 実施項目	7-3-①	連携先	綾町 宮崎県
事業概要 (目的)	綾町の森林・林業に関わる関係機関(綾町、宮崎中央森林組合、中部農林振興局、宮崎森林管理署)により、綾町の森林・林業が綾 BR の推進にふさわしいものとなるよう具体の解決に向けた検討を実施。		

綾町森林・林業関係検討会

1 実施概要

綾町の森林・林業の現状、問題、課題等についての意見交換等を行い、この結果を踏まえ、次期綾町森林整備計画（案）の策定に向けて、現計画の見直しについて検討。

2 実施内容

5月10日 (親会)	異動に伴う構成メンバーの変更により、これまでの論議内容等について再確認、情報共有
7月1日 (親会)	綾町内の民有林を概観的に現地視察し、現地視察で感じた現状、問題、課題等について意見交換
8月1日 (親会)	検討会の今後の進め方について意見交換
9月27日 (親会)	森林整備関係の現状、問題、課題について意見交換
10月28日 (親会)	森林づくりの長期ビジョンについて意見交換
11月30日 (親会)	ゾーニング設定について意見交換
12月20日 (親会)	綾町長に検討会のこれまでの取組の成果と今後の取組について説明
1月5日 2月13日 (作業部会)	綾町森林整備計画「公益的機能別森林等の整備に関する事項」の見直し（案）の検討
3月10日 (親会)	作業部会で検討した綾町森林整備計画「公益的機能別森林等の整備に関する事項」の見直し（案）を説明し、親会で了承

7 項目：照葉樹林と共生した地域づくり

事業名	ユネスコ エコパークとの連携(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	7-3-①	連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾ユネスコ エコパークと連携することで、綾プロの認知度を高め、活動を活性化 する。		

■綾ユネスコエコパーク(BR)推進の根幹となる協議会等の運営

平成 28 年 5 月 25 日(水) まちづくり協議会総会・役員会

〃 6 月 14 日(火) 地域づくり部会

〃 6 月 28 日(火)・3 月 22 日(水) 調査教育部会

〃 6 月 29 日(水)・3 月 15 日(水) 生物多様性保全部会

〃 8 月 2 日(火) 専門委員会

〃 8 月 25 日(木) 運営会議

〃 8 月 29 日(月) 地域連携協議会

各種協議会等を上記のとおり開催した。専門委員会および運営会議にて、「綾 BR 管理運営計画」について協議し、地域連携協議会にて最終的な承認を得た。



＜綾BR地域連携協議会＞



＜綾BR運営会議＞

■綾ユネスコエコパークエリアの拡張にむけた生物の基礎調査を実施した。

■町民への綾ユネスコエコパークに関するアンケート調査補助を行った。

■綾ユネスコ エコパーク年間活動 平成28年度活動実績 172日、222件

視察対応数は前年度とほぼ同じ。シンポジウム・イベント等が若干増加している。28年度から新たに綾プロイベントとして、「綾・照葉樹林ロングウォーク」が開催された。

()内は綾プロ関連の件数。

1 視察・外部対応	45件(44件)
2 講義及び講演等の実施	36件(26件)
3 シンポジウム・イベント等の開催	23件(20件)
4 取材対応	1件(1件)
5 調査・作業	30件(26件)
6 会議・下見・打合せ等	87件(71件)

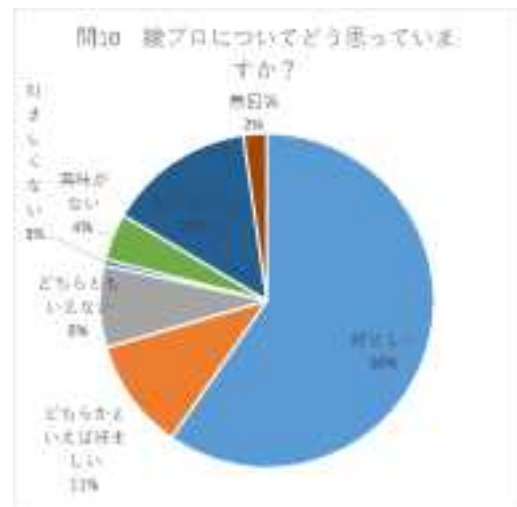
事業名	綾ユネスコエコパーク専門委員会、地域連携協議会への出席。綾町ユネスコエコパーク運営会議における実施計画策定支援(継続)	実施主体	NACS-J、綾町
項目-行動計画-実施項目	7-3-①	連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域連携協議会、専門委員会へ出席し、国内外の情報を活用してよい方向に進むようアドバイスを行う。運営会議における生物多様性保全部会、調査教育部会の保全管理実施計画策定にあたり、アドバイスを行う。		

綾ユネスコエコパークについてのアンケート調査

このアンケート調査は、平成 24（2012）年に綾ユネスコエコパークに登録されてから 4 年経ったことをふまえ、関連する綾町の取り組みや社会状況の認知度、町民の意識の変化などを調査するために実施された。平成 35（2023）年には、綾ユネスコエコパークの定期報告を日本として初めて提出することになるが、その際にも、登録前と登録後で町民の意識がどのように変化したのか科学的に明らかにし、結果を報告する際の重要な指標になると考えられる。

- ・対象者：綾町の地域住民
- ・配布数：300 地区ごとに綾ユネスコエコパーク推進室が調整の上配布。
- ・調査期間：2016 年 3 月～4 月
- ・回収状況・有効回答：176
- ・回収率：58.7%

・綾プロについての質問では、現在の綾プロについては好ましいと答えた方が好ましいとどちらかといえば好ましいを含めて 7 割程度あった。発足当初は 5 割程度だったので好ましく思う町民は増えているといえた。



Biospärenreservat Rhön

UNESCO Rhön生物圏保存地域定期報告 2013

ドイツのレーン BR に関する定期報告書（2013）を翻訳した。

2023年には綾ユネスコエコパークは定期報告をユネスコに提出必要があるため参考資料として報告した。

8 項目：生物多様性の保全管理

事業名	綾生物多様性地域戦略 実践支援事業(継続)	実施主体	綾町
項目-行動計画- 実施項目	8-1-④	連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾生物多様性地域戦略の内容を実際に実施していくための綾町内での活動を委託する		

■綾プロエリア内林床植生調査

日本自然保護協会、林床調査ボランティア(てるはの森の会)、綾町ユネスコエコパーク推進室と連携し、綾プロエリア内で実施している林床植生の調査を継続して実施。過去の調査結果との比較から林床植生の組成の違いを明らかにした。

○国有林

・日 時 平成 28 年 11 月 25 日

・参加者 10 名(うち 2 名スタッフ)

○県有林

・日 時 平成 29 年 2 月 25 日

・参加者 12 名(うち 3 名スタッフ)





■生物多様性地域戦略実施支援

平成 26 年度に策定した生物多様性地域戦略の内容を実践するにあたり、日本自然保護協会から助言を受け、綾ユネスコエコパーク管理運営計画との整合性をはかる上で留意すべき点等についてとりまとめた。

■情報収集

国内外のユネスコエコパークや自然環境保全管理計画に関する情報を収集した。

平成28年度 綾の照葉樹林プロジェクト関連文献一覧

タイトル	発行者	発行年	事務局 / 執筆者	雑誌	種類	HP上での公開/非公開	公開しているHP名
照葉樹林だより第46号～48号	(一社) てるはの森の会	平成28年7月 ～29年3月	(一社) てるはの森の会		会報	公開	てるはの森の会
綾の照葉樹林プロジェクト平成27年度事業報告	綾の照葉樹林プロジェクト 連携会議	平成28年7月	(一社) てるはの森の会		事業報告	公開	てるはの森の会
綾の照葉樹林プロジェクト10周年寄付キャンペーン	綾の照葉樹林プロジェクト 連携会議(一社) てるはの森の 環境省	平成28年9月	(一社) てるはの森の会		パンフレット	公開	てるはの森の会
人と自然のふれあい調査	環境省	平成28年 12月・1月	取材：てるはの森の会	環境省広報誌エコジン「生物多様 性と私たちの2020年」p. 13	電子書籍	公開	環境省広報誌 エコジン
平成28年度 照葉樹林復元の動態モニタリング及び各種研究成果の整理等についで業務	九州森林管理局	平成29年3月	岩切環境技術株式会社		基礎調査	非公開	—
平成28年度 綾70における歴史等調査及び環境教育利用のための調査	九州森林管理局	平成29年3月	(一社) てるはの森の会		基礎調査	非公開	—
平成28年度 綾生物多様性地域戦略実施計画支援事業報告書	綾町	平成29年3月	(公財) 日本自然保護協会		事業報告	非公開	—

1. 【綾エコパーク拠点整備】



綾町南侯のビジターセンター整備予定地。
エコパークの知の拠点作りを進める

綾町はユネスコエコパークの「知の拠点」となるビジターセンターの整備に乗り出す。自然や環境教育な

綾エコパーク拠点整備

17年度に 窓口、研究施設を集約

便性を高めるほか、国内外の研究や観光客などの受け入れ体制を整える。センターは2017年度から始動する予定。

ビジターセンターは同町南侯の綾中央病院跡1階部分の一部（約170平方メートル）を改修して整備する。町ユネスコエコパーク推進室によると、国内で登録される他地域のエコパークは国立公園内が多く、国が設置するガイダンス施設などが整備されている。一方、同町は九州中央山地国定公園内にあるが、国定公園は都道府県が管理することになっており、対応がまちまち。これまで同町には同様の施設がなく、国の地方創生加速化交付金を活用して

センターを造ることにした。予算額は15年度補正で1210万円。

センター内の施設などは5月までに、住民や学識経験者らで会議を開いて決定する。現在の計画では、同センター事務室やエコパークを紹介するパネルなどを並べた展示スペースを整備。15年9月に同町と一包括的連携に関する協定を結んだ宮崎大のサテライトオフィスを設置するほか、同町などで照葉樹林の保全活動などを行う「つるはの森の会」事務局を、宮崎市から移転させる予定という。

同推進室の石田達也エコパークまちづくり専門監は「町内外の人がエコパークについて学べる施設にする。将来は綾だけでなく、エコパーク登録に向けて準備する祖母嶺山系と連携したツアーなども企画してみたい」と話している。

（山下仁志）

2. 【エコパーク理解深めて】

エコパーク理解深めて

綾町が散策マップ製作

綾ユネスコエコパークについて理解を深めてもらおうと、綾町が町内の散策マップを製作した。町民が住むエリアを中心に、自然が厳重に守られた奥山も紹介。日本語、英語、韓国語の3種類を作っており、町内を回遊する観光客増を目指す。

マップはA2サイズで、約9千部。表面は綾町中心部の散策地図で、乗馬体験のできる綾馬事公苑や国内最大級の木造屋内施設・綾てるはドームなどのほか、飲食店情報も記載している。町内に在任の画家・小田瀬穂香さん(42)がイラストを手掛けた。

綾ユネスコエコパークの魅力を伝える散策マップ

裏面はエコパークの三つのエリアを俯瞰(ふかん)した地図で、自然生態系が厳重に守られる核心地域、環境教育などに利用できる緩衝地域、人々が暮らす移行地域を色分けして紹介。地図上にはイワツツジやホタルの名所も載せている。

今年の1月から約3カ月かけて製作し、4月中旬から観光案内所や宮崎駅などで配布している。町ユネスコエコパーク推進室は「地図を片手に自然と共生する人々の暮らしを歩きながら感じてほしい」としている。(山下仁志)

3. 【新緑 青空に映える】

「あじのり」の4日、綾町南隣の照葉大吊橋は照葉樹林の新緑が青空に映え、多くの家族連れやカップルなどでにぎわった。国内最大級を誇る照葉樹林帯はシイやカシ、タブなど開花。黄緑色やクリーム色の花と若葉がもくもくと膨らんでいた。

県内はこの日、高気圧に覆われ、おおむね晴天に恵まれた。宮崎地方気象台によると最高気温は日向市27・5度、宮崎市赤江で27・2度など。今月観測地点のうち11地点で25度以上の夏日となった。

3連休最終日の5日も全県でおおむね晴れとなりそう。最高気温は宮崎、都城市が29度、日南市沿岸で28度の見込み。(那良雄郎、岩水典宏)



宮崎日日新聞が撮った照葉大吊橋周辺の照葉樹林。4日午前、綾町南隣の照葉大吊橋。(那良雄郎撮影)

宮崎日日新聞 2016 年 5 月 5 日

4. 【県内の照葉樹林 写真作品を募集】

住所、氏名、年齢、電話番号、電子メールアドレスのほか、作品タイトルやコメント(100字以内)、撮影日や場所を書いて〒880-0000 14、宮崎市鶴島2の9の6、みやざきNPOハウス403号、同会事務局まで。問い合わせは同会 ☎098-5(35)7288。

県内の照葉樹林 写真作品を募集

31日締め切り

照葉樹林の保全活動などを行う「てるはの森の会」(宮崎市、河野耕三代代表理事)は県内の照葉樹林を写し撮った写真作品を募っている。31日締め切り(当日消印有効)。

受賞作は、同会が年4回発行している会報誌「照葉樹林だより」の表紙に掲載される。受賞者には綾町内で使用できる商品券(千円分)などが贈られる。作品は2L判(カラー、モノクロどちらでも可)で、データ応募も可能。

宮崎日日新聞 2016 年 5 月 20 日

5. 【自然生かす農業理解】

中米コスタリカで自然保護などに携わる政府・行政関係者が8日、綾町を視察した。日本最大級の照葉樹林を歩き、意見交換を通じて、自然環境を生かしたまちづくりや農業の取り組みに理解を深めた。視察は国際協力機構（JICA）研修事業の一環で、同国環境エネルギー省と国家保全地域庁の15人が訪問。同国は先進的な自然保護政策を展開しており、5月末から3週間かけて富士山や屋久島など

2016.6.10 自然生かす農業理解 コスタリカ政府、綾を視察



綾町の自然を生かしたまちづくりなどについて説明を受けるコスタリカの政府・行政担当者ら

日本の先進地を回っている。本県では岡町が唯一の視察先。町担当者は、照葉樹林伐採計画に端を発した有機農業の推進や、官民一体で照葉樹林の保護・復元に取り組んできた経緯を説明。2012年にユネスコエコパークの登録へと結実したことを紹介した。視察団は照葉大吊橋に足を運び、照葉樹林を間近で観察した。同省のパトリシア・マドリガル・コルデロ環境担当副大

臣は「有機農業を生かすまちづくりなど、市民参加型の取り組みは素晴らしいと思う。綾の取り組みを母国でも参考にしたい」と話していた。

（山下仁志）

6. 【山の日 県内多彩催し】

新たに制定された国民の祝日「山の日」の11日、県内各地では山に親しみ、恵みに感謝するイベントがあり、多くの県民が参加した。

「山の日」県内多彩催し

豊かな生態系観察 えびの高原

えびの高原（えびの市）で、国内外から十人を超える「えびの山モンテフェス2016」（えびの自然保護協会）が主催する「えびの山」の観察ツアーが、初開催された。参加者は、えびの高原の豊かな生態系を堪能した。



登山や野鳥の観察作り、スタンプラリー、山の楽しみ方を学ぶトークショーなど多彩なプログラム。4月に登山道が整備された「えびの山」のトレッキングには親子連れら約30人が参加。野鳥のシカを眺めたり、リョウウツやツクシコウモリンウの花々を写真に収めたりして、豊かな自然を堪能した。

山頂景色と歌声楽しむ

高千穂峰



高千穂峰（1,574メートル）を登り、山頂でミニコンサートを楽しむイベントが開いた。同町や宮崎市などから参加した約60人が山頂からの雄大な景色と、伸びやかな歌声を楽しんでいた。

参加者は豊後公園近くの登山口から、それぞれのペースで進む。時間半から3時間半で登り切った。山頂では、高千穂町でふるさと大使の大野勇太さん（34）＝東京都在住＝がミニコンサート。神話にちなみ古代衣装を身にまとった大野さんは、霧島山をイメージしたオリジナル曲など4曲を披露した。

生態系を堪能した「写真展」

都城市・沖水小4年の島田拓海君（10）は「いろいろな草花が生えていて面白かった。頂上の眺めも最高だった」と笑顔を見せていた。（高千穂太）

狐師の知恵紹介 古木と記念撮影

綾・川中自然公園

綾町南保の川中自然公園で、ヤング・環境では「狐師と行く川中ツアール」が開かれた。町内外から集まった約30人が、町民会館の小西俊一（48）会長の案内で、約3時間ほど山を散策した。



森を知り尽くした小西さんが、狐に使用していた笛やインシシなどを持参。シカの足跡などを紹介しながら、同キヤンパ場から1時間ほどかけて、標高約400メートルの一本杉まで歩いた。参加者たちは、古木の周りで手をつなぎ、静かに森の音を聴いたり、記念撮影したりした。写真展。

宮崎日日新聞 2016 年 8 月 12 日

▽狐師と歩く川中ツアール 8月11日午前8時50分、綾町南保の川中自然公園駐車場集合。町民会館の小西俊一（48）会長の解説で、森林内を歩く。地元食材を使った昼食を提供。午後1時半解散。ヤマビルが出るので長袖、長ズボン、長靴下の着用を。参加費1,000円（保険料、昼食代込み）。先着20人で、8月5日までに申し込む。てらのはの森の会（0985・35・7288）

2016.7.27 宮崎日日新聞 掲載済み
「山の日」に合わせ、町内の狐師の案内で川中自然公園周辺の山を約3時間散策する。8月5日締め切り。定員は先着20人で、8月5日までに申し込む。てらのはの森の会（0985・35・7288）

参加者募集

読売新聞 2016 年 7 月 22 日

宮崎日日新聞 2016 年 7 月 27 日

7. 【照葉樹林の復元目指す】

照葉樹林の復元目指す



日本最大規模となる約1000haの照葉樹林が広がる綾町。イチイガシやスガシイなど照葉樹2000種が生い茂り、高さ30m程度の巨木もそびえ立つ。

「これだけの自然林があるのは国内で唯一。町が誇る貴重な森を守りたい」。10年以上の経験を持つ綾町自然環境課の河野三三さん(68)は力を込めた。

高度経済成長期の1960年代、照葉樹林の伐採計画が持ち上がった。当時の郷田実

100年計画 原始的な姿へ



照葉樹林の保護・復元計画で成長した若い樹木を調べる河野さん

町長(2000年死去)は反対し、有機農業など自然を生かした政策を推進。健康や地産地消の意識が高まり、綾地域のユネスコエコパーク登録につながった。

中でも登録を後押ししたのが、2005年度に始まった「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」(通称・綾の照葉樹林プロジェクト)。森林の間に点在する杉などの人工林を間伐し、原始的な照葉樹林の姿を取り戻す。森を保育する町と、町に自然保護団体も加わって取り組む。計画期間が100年に及ぶ活動だ。

保護・復元計画の対象は照葉樹林を含めた1方面。このうち、15年度までの11年間で計6500㎡に手を入れた。杉を切り出すと隙間から太陽光が差し込み、ウラボシやハズリハなど若い照葉樹が育つようになった。

一方で、課題もある。一帯に生息する鹿が若い樹木を食い荒らし、照葉樹の生育を妨げている。間伐はしたものの成長する照葉樹の割合が予想より低く、調べると鹿が樹木で角を研いだ形跡が見つかっていた。

対策を練ろうと昨年12月、これまでに間伐を行った十数か所で、復元の進捗と鹿の被害を確かめる植生調査を初めて実施した。今後10年を以て、照葉樹の生育を定期的に観察する。調査地を一般開放し、現状を住民に報告することも検討中という。

エコパークの登録地は10年ごとにユネスコに報告書を提出し、管理運営など基準を満たさない場合は登録の取り消しもありうる。河野さんは「照葉樹林の保護・復元計画は、まだ誰も成し遂げたことのない試み。他の地域にも通じる、森林保護の問題を解決する道筋を見つけない」と話す。

照葉樹林で知られる綾町を中心とした綾地域は12年、エコパークに登録された。年内の登録を目指す町は、町・大原地域に先駆けて活動する現地を取材した。

8. 【綾の自然、歴史体感】



コースにある植物についてガイドから説明を受けながら、綾の森を歩く参加者

綾町の自然や歴史を味わうイベント「綾ひらひらウオーキング」(綾の照葉樹林プロジェクト地域づくりワーキンググループ主催)は4日、同町内であった。約30人が参加し、綾神社などを巡りながら森林浴を楽しんだ。

同グループは綾の魅力を伝えるため、約5年前から散策コースづくりを開始。これに合わせて案内ガイドを養成しており、今回初めて一般から参加者を募って散策した。

綾の自然、歴史体感

家族連れらウオーキング

この日は、町内に設けた3ルートのうち、気軽に照葉樹の森を体感できるコースを2時間半かけて回った。

参加者は六つの班に分かれて、綾馬事公苑を出発。野首遊歩道では、ガイドからセンダンの木やマムシグサといった植物の説明を受けながら歩いた。中でも県天然記念物で樹齢約700年のイチイガシ(樹高約18m)は一同で見上げ、大きさに驚いていた。

宮崎日日新聞 2017 年 3 月 5 日

募ってます
◇綾ひらひらウオーキング参加者 3月4日午前9時半から、綾町内で、綾の照葉樹林プロジェクト地域づくりワーキンググループ主催。午前9時20分に綾馬事公苑駐車場に集合。野首遊歩道や綾国際クラフトの城など約3kmのコースを散策する。照葉大吊橋や綾国際クラフトの城入場料などが無料になる「綾の旅札」などが付き、参加費は1人千円(保険料など込み)。定員20人で3月2日締め切り。申し込み・問い合わせはてるはの森の会 ☎0985(35)72888。

参加者募集 宮崎日日新聞 2017 年 2 月 28 日

町の中心部に多くの自然が残っていることに驚いた人も多かったようだ。綾町の魅力を伝えようと、町民らでつくるグループが5年ほど前から取り組んでいた散策コースが完成し、ウオーキングイベントが開かれた。歩いたのは綾馬事公苑から森の中の遊歩道を通り、綾城を巡る2時間半のコース。国内最大級の照葉樹林の中にも既にコースがあ

鬼の洗濯板

るが、今回の売りは何と言っても「手軽さ」だ。実際に歩いてみると、市街地から近く、普段着の服装でも十分だった。このグループが設けたコースには町内の里山を巡るものもある。ガイドの案内も付いているので、歴史や文化をより知ることができるのも面白い。リフレッシュを兼ねて、出掛けてみてはどうだろうか。

(山下仁志)

宮崎日日新聞 2017 年 3 月 10 日

9. 【森の恵み体感】



親子で椅子作りに取り組む参加者

2017.3/3
宮崎

森の恵み体感

綾で散策
椅子作り

森の恵みを体感するイベント「森のめぐみの工作&散策」1日綾の照葉樹林へてはの森の会主催は12日、綾町南俣の川中自然公園キャンプ場であった。宮崎市と同町の親

子連れなど約30人が参加。椅子作りや森の散策などを通じて、綾の照葉樹林を体感した。森の大切さを知ってもらおうと、同会が2016年から始め今回で2回目。この日

は、町ユネスコエコパーク推進員の職員が、照葉樹林は葉に光沢があり太陽の光を反射して輝くことから照葉樹林と呼ばれていると説明。またスギなどの人工林を取り除き、照葉樹林の保護・復元に取り組むプロジェクトを官民一体で進めていることを紹介した。

木工教室では県産杉材を使って椅子作りを体験した。参加者は、大人が杉材を手で押さえ、子どもがくぎを打つなどしながら、1時間ほどで高さ約30cmの椅子を完成させていた。午後からは周囲の森を歩いて、イチイガシの太木や住居跡などを見て回った。

家族など5人で参加した宮崎市広島1丁目、宮崎小3年の緒方十蔵君(9)は「緑がたくさんあって気持ち良かった。椅子は花瓶などを置く台として家で使いたい」と話していた。

(山下仁志)

宮崎日日新聞 2017年3月13日

募っています
◇「森のめぐみの工作&散策」参加者 12日午前10時から、綾町の川中自然公園で。てはの森の会主催。スギで椅子を作るほか、周囲の森を散策する。定員は小学4年生以上の親子10組。参加費は1人800円(弁当や材料費、保険料など込み)。10日締め切り。申し込み、問い合わせは同会 ☎0985(35)7288。

参加者募集 宮崎日日新聞 2017年3月8日



綾の照葉樹林 プロジェクト

発 行：平成 29 年 8 月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議

編 集：一般社団法人てるはの森の会

お問い合わせ先：

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島 2 丁目 9-6 みやざき NPO ハウス 403 号室

TEL:0985-35-7288 FAX:0985-35-7289 電子メール:teruha@miyazaki-catv.ne.jp

ホームページ: <http://teruhanomori.com>

※表紙写真はナラ枯れ予防剤を注入する様子（2016 年 4 月 11 日 川中イチイガシ）